

～高浜虚子の「滑稽俳句」

口あけて腹の底まで初笑

我生の今日の昼寝も一大事

数の子に老の齒莖を鳴らしけり

人間吏となるも風流胡瓜曲るも亦

(註) 官吏なんかになると、本道は風流でない人だけど、人間によっては風流な官吏もある。  
へボ胡瓜といって曲がっているものも。

ほろほろと泣き合ふ尼や山葵漬

あふむけば口いっぱいのはる日かな

これはさて入学の子の大頭

亀鳴くや皆愚なる村のもの

うなり落つ蜂や大地を怒り這ふ

地球一万余回転冬日にここに